

R

REPORT

HAKUTO-Rのミッション2に貢献 鶴丸よ、月へ届け

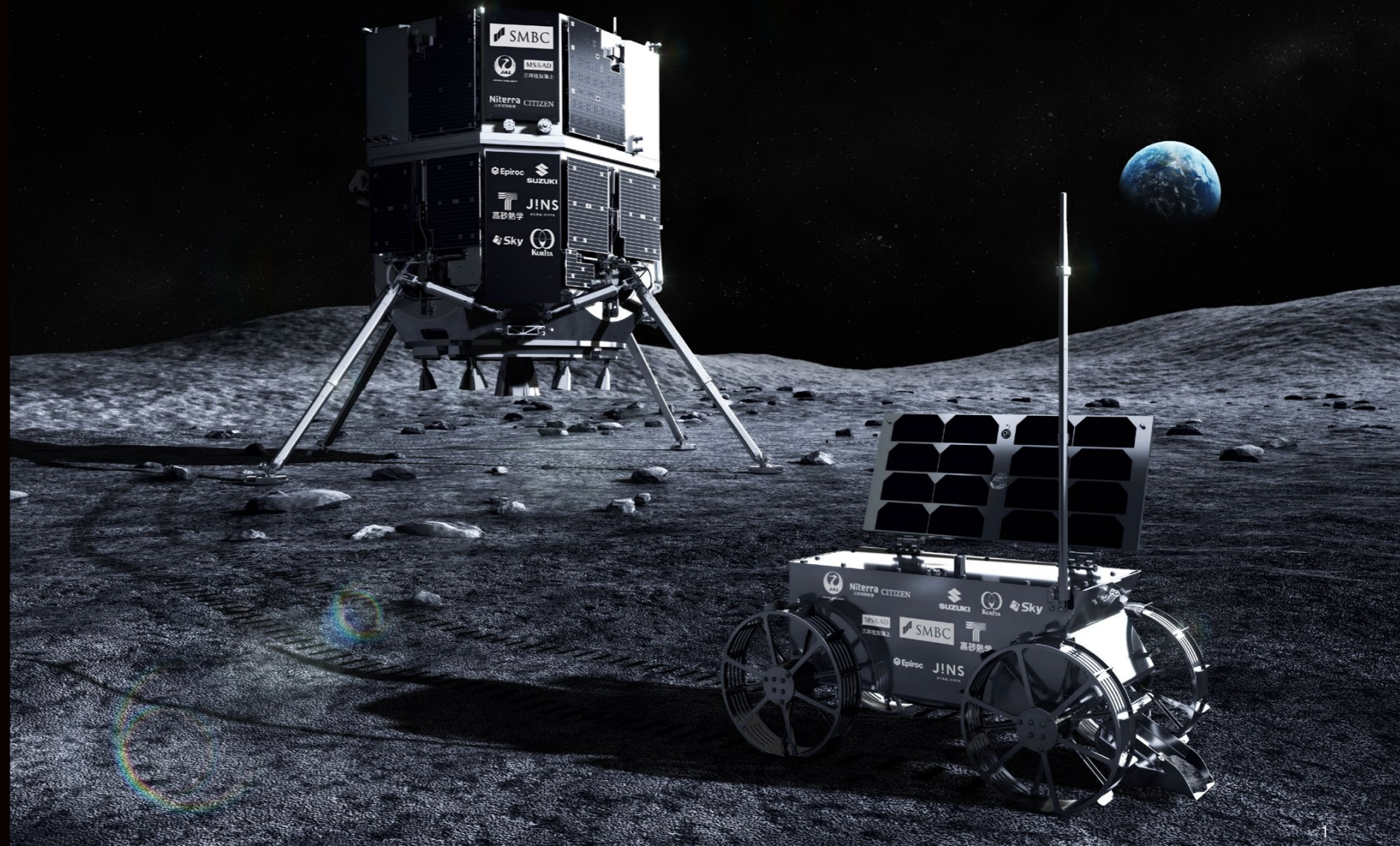
月に触れる日

夜空に最も大きく輝く天体・月。約38万km先の隣人は、古来多くの人を魅了し、実は未だ謎に満ちた遠い存在です。

2007年にGoogleをスポンサーとして始まった月面無人探査コンテストでは、世界中から34のチームが登録し、月面に着陸できたチームのないまま、2018年に閉幕しました。iSpaceが主導する「HAKUTO」は、このとき唯一日本から参加し、ファイナリスト5にも残ったチームです。

JALグループはこのプロジェクトを応援すべく、2015年よりiSpaceとの協業を開始し、2017年には資本業務提携を締結。日本初の民間月面探査への挑戦が「HAKUTO-R」プロジェクトに引き継がれた後は、コーポレートパートナーとしてこの挑戦を応援してきました。

資金面での支援にとどまらず、



「航空整備技術を活用した組み立て、非破壊検査等の技術支援、月着陸船の部品調達や輸送も含めて、JALグループの何百人もの社員がこの挑戦を直接支えています。また何千、何万もの社員が、鶴丸とともにiSpaceさんの夢が月に到達することにワクワクしています」と語るのは、JAL事業開発部・宇宙グループの東島誠。2024年春に組織化された宇宙事業の専任部署で、宇宙事業開発によるグループ全体の発展を目指しています。

宇宙に架けるJALの思い

JALグループは移動を通じた関係・つながりを創造するこ



JAL ENGINEERING 航空機エンジンの整備技術を宇宙へ

「航空機エンジンは、非常に高い温度や圧力にさらされる金属装置です。JALエンジニアリングではエンジンを始めた航空機整備を担っており、その技術を生かしてHAKUTO-Rの推進系の配管溶接を担当しました。加工が難しいチタンを少しの凹凸もなくつなぐことで、安全を祈るJALグループの魂を込めました」(エンジン整備センター・東峯誠)

とで、社会的・経済的価値を創出し、企業価値を向上させるといふ価値創造ストーリーを掲げています。「宇宙事業開発はそんな挑戦のひとつです。航空と同じ世界を、宇宙にをビジョンに、これまでの空港・整備・運航・客室・運航管理といった仕組みを宇宙へ展開し、安全・安心な空の旅を宇宙でも実現していきたい。異業種同士がプロフェッショナルな知見を組み合わせれば、産業を発展させられると感じています」(東島)

「宇宙産業は2040年に140兆円市場になるともいわれています。いつか宇宙港から旅立てる日も来るでしょう。1951年の会社設立から受け継がれてきたノウハウを、宇宙事業の発展に生かして、宇宙事業の発展を推進していきたいです」と、同部署の葉柴隆斗も目を輝かせます。

HAKUTO-Rプロジェクトは、最速で今月、月面着陸と月面探査を目指す「ミッション2」に挑戦します。準備は全て整い、アメリカのフロリダで、「その時」を待っています。

「東京からニューヨークまで1万kmを飛ぶ飛行機と、38万km先の月。遙か先に行くiSpaceさんの挑戦を見習い、私たちも新しい価値を創っていきたくです」(葉柴)

宇宙産業を支援、拡大させていくことは、航空業を担うJALの使命であり、開拓者精神で日本の空を拓いてきた挑戦の歴史とも重なっています。

1.月面着陸したランダー(左)とローバー(月面探査車)のイメージ。2.ローバーを輸送したJAL CARGO。3.「2024国際航空宇宙展」のJALブースでローバーを展示。4.JAL SKY MUSEUMで昨年9月に行った記者発表会には宇宙飛行士の若田光一さんも参加。

